



希望が丘中地域



人口 10,256人



6歳未満児数(率) 518人(5.1%)



世帯数 4,581世帯



高齢者数(率) 2,041人(19.9%)



出生数 98人

希望が丘中地域

懇談会開催日

- 第1回目 平成17年7月25日
- 第2回目 平成17年8月22日
- 第3回目 平成17年9月28日



支えあい連絡会開催日

- 第1回目 平成17年12月14日

地域の主な福祉保健活動

- ◆ 子育て支援連絡会(K.Kネット)
- ◆ 中途障害者とその家族の会(書道やバスハイク)
- ◆ 松の会(ひとり暮らし高齢者昼食会)
- ◆ 三世代交流ゲートボール大会

様々な取り組みや活動の中から、子育て支援、高齢者・障害者支援、世代間交流の3つの視点で主な活動を掲載しています。



当面取り組む地域の課題

- まずはあいさつからはじめよう
- 交流は子どもの頃から
- 地域の活動に参加しよう

地域懇談会で、これらの課題から取り組むことが話し合われました。

地域での具体的な取り組み

取り組みの目標・テーマ

地域の支えあいを育む活発な交流があるまち

取り組みを進めるにあたっての大切にしたい点

最近はお互いに関心が無かったり、子ども同士の関わりや、町内会と商店街との交流も少なくなっていますが、共通の事をする中であいさつがしやすくなると思います。少子高齢化が進む中で、地域の安全を守り、安心して日々の生活を送るためには、あらゆる機会を捉えて、地域の中の様々な交流を活発にしていくことが求められています。

具体的な取り組み

- ・ あいさつの街をPRする（おあしす運動）
- ・ 地域の集まりで知り合いを増やす
- ・ 学校を通じて交流を行う



懇談会参加者

連合自治会関係者
民生委員・児童委員
青少年指導員
小学校PTA関係者
障害者及び家族

地区社会福祉協議会関係者
保健活動推進員
ボランティアグループ
子ども会関係者

目標 テーマ

地域の支えあいを育む活発な交流があるまち

大切にしたい点

地域の中の様々な交流を活発にする

最近では各家庭がお互いに無関心であったり、子ども同士の関わりや、町内会と商店街との交流も少なくなっていますが、共通の事をする事であいさつがしやすくなると思います。

少子高齢化の進む中で、地域の安全を守り、安心して日々の生活を送るためには、あらゆる機会を捉えて、地域の中の様々な交流を活発にしていくことが求められています。

課題

まずはあいさつから はじめよう

- ◇交流はまずあいさつから
- ◇積極的に声をかけ、隣近所との親密な関係を持つ
- ◇一声(あいさつ)掛けが大切と思うので、町内中で声を掛け合う

交流は子どもの頃から

- ◇地域として子どもともしっかり関わってもらう
- ◇子どもの頃から、近所の方へのあいさつを教育する

地域の活動に参加しよう

- ◇情報を提供する地域の広報活動を強化する必要がある
- ◇運動会や高齢者の集いなど地域の活動に参加を促す

目標 テーマ

道路事情がよくないなかで、車いすを含めて 誰もが安全に移動できる空間を確保できるまち

大切にしたい点

改善しよう道路の使い方

希望が丘中地域は、道路が狭い、バスの便がよくない、渋滞があるなど道路事情がよくありません。道路の整備は区を通じて市に要望していくと共に、それ以外に、買い物時の放置自転車、商店の荷物の搬入による違法駐車、朝の送迎等で車が多いなど、交通マナーが悪いことも大きな問題となっています。

地域の力を発揮できるかはいかにマナーを徹底していくかにかかっています。

課題、目標テーマ

目標 テーマ

安全と安心に守られいきいきと過ごせるまち

大切にしたい点

地域の安全は自分たちで守る

地震のときにエレベーターが止ったり、人通りが少ない道など、組織化された犯罪でなくても身の回りに安全を脅かすものはたくさんあります。子どもたちも安心して学校に通えるようにしていく必要があります。そのためは、地域の人たちの防犯意識を高めることがとても大切ですが、現在は、地域の人たちの顔が見えないのが実態です。地域の安全も自分たちで守る。そのためは地域で活動する様々な人たちがその力を結集して地域の安全を守っていく必要があります。

課題

地域活動の担い手を育てよう

- ◇地域活動(自治会やボランティア)のやる気のある人が必要
- ◇ボランティアは心の問題であり一人では何もできない
- ◇活動のキーパーソンの育成が重要

お互いの顔の見える関係をつくろう

- ◇集合住宅の住民の顔が見えないのが不安
- ◇日常のコミュニケーションが足りないので緊急時が不安
- ◇地域にとけこむ機会を待っている人もいる

学校や保育園と地域が連携しよう

- ◇学校と地域の人々の協働によって子どもたちを見守り、安全を確保する

課題

車いすを利用している人の存在をみんなで確認しよう

- ◇車いすに乗る人も安全通行できるような工夫が必要

ハード面での整備は継続して行政に要望していこう

- ◇電柱の地中化による歩道の確保
- ◇相鉄線の地下又は高架化
- ◇取り締まりによって違法駐車をなくす
- ◇バリアフリーのまちづくり
- ◇道路の拡幅
- ◇電動車いすの普及